

会 議 録

会議の名称	第2回 東由利地域協議会
開催日時	平成21年11月4日(水)午後1時30分
開催場所	東由利総合支所二階 第3・4・5会議室
出席者氏名	「出席者名簿」のとおり
欠席者氏名	渡辺幹夫、伊東文雄、鈴木博、畠山与一、遠藤忠平
【会議次第】	
1. 開 会	
2. 会長挨拶	
3. 協 議	
・地域づくりのソフト事業について	
4. そ の 他	
5. 閉 会	
会議の経過	別紙のとおり

出席者名簿

(地域協議会委員 12名)

役職名	氏名	備考
会長	長谷山 博 昭	
副会長	小松 佳 和	
	小松 彪	
	小松 正 武	
	小松 由 子	
	阿 部 タツ子	
	石 綿 喜代隆	
	高 橋 京 子	
	大日向 与志子	
	小 松 耕之助	
	長谷山 光	
	佐 野 陽 子	

理 事	猿 田 正 好	
総合支所長	伊 藤 俊 彦	
振興課長	加 賀 秀 喜	
市民課長	佐 藤 順 一	
福祉保健課長	佐々木 喜 隆	
産業課長	小 番 直 義	
建設課長	柴 田 和 尋	
東光苑施設長	大 庭 敏 昭	
教育学習課長	高 橋 裕 子	
事務局	小 野 信 子	
	小助川 洋	

会議の経過

第2回 東由利地域協議会

と き 平成21年11月4日(水)
午後1時30分～3時
ところ 東由利総合支所二階
第3・4・5会議室

1. 開 会 午後1時30分

2. 会長挨拶

8月3日に地域協議会が開催され、長谷部市長がお出でになった。長谷部市長の挨拶の中に市民の声を大切にしながら市政づくりに努めたい、ということがあったが、その話からすれば今日の会議の協議事項・案件の内容が、市民の声を・・・という点にぴったりするようなものである。普段、委員の皆さんが考えてくださっていることを、ざっくばらんに意見を出していただけるといい。

今日欠席された方からも何点かアイデアを提案していただいているようである。とっつきやすい、肩の凝らないテーマであるので、委員の皆さんからは忌憚のないアイデア、ご意見を出していただきたい。

いずれ、協議会の中で出されたアイデアについて、次回協議会で皆さんにフィードバックしたい。フィードバックする内容は、委員から出た案を、似通った案の「島」にして、まとめあげたものをフィードバックしていきたい。

まず、今日、限られた時間であるが、いろんなアイデア、ご意見等を出していただきたい。

理事挨拶

現在、市では新年度予算に本格的に取りかかっているシーズンである。市長の来年度に向けての売りの施策の一つに、今日皆さんにご協力をいただく地域作りのソフト事業が入っている。

これはかねがね、市長が当選し市長就任してから、合併で地域

の特色をとけこませてうまくやっという目的だったが、どうしても平坦地にならされてしまって、それぞれ地域の色、特色、個性、パワーがなかなか上手に発揮できる機会がなくなってしまっているというのが市長の感想であった。

それは確かにその通りであり、過渡期というのはそうした難しさもあるということも充分職員も認識して、市長から指示を受けたものである。地域にあってどのような、そうした特色をもう一度自分たちで組み立てるような努力を、アイデアを出していただける形になるかと、いうことを考えてもらおうではないかということで、今般、それぞれ地域にご相談するようにと指示を受けての、企画の実施に向けたご相談である。

委員の皆様、一人一人の頭の中で考えていただくのはもちろん、それぞれ日常的にお付き合いしている諸団体、近隣の皆様方、町内会などの皆様から、機会を設けているようなご要望を聞きながら、実現可能なソフト事業を提案として、それぞれまとめていただければ、大変に良い提案になるのではないかと思う。

今日が第2回地域協議会の三箇所目であり、それぞれで同じようなご相談を申し上げているが、これは決して市からのお願いというのではなく、皆様方が創意工夫で自主的に、できるだけ市の縛りは設けないというのが原則で、そういうことをご理解をいただき、協議していただきたい。

めっきり冬に近づいてきて、インフルエンザについて心配なところもあるが、これから冬場に向けてお忙しい時期が来るかと思うが、一時、近くの団らんの席でも結構なので、ソフト事業についてご検討いただきたい。

どうぞよろしく申し上げます。

3. 協 議

加賀振興課長	(資料1・2説明)
議長	ただいまの説明に対して、委員の皆さんから質問、お聞きしたい点があったらご発言願いたい。
A委員	事業予算枠300万とあるが、これは単年度だけか？例えば、2年間、3年間積み上げてというのはどうか。

加賀振興課長	単年度だけではない。継続される事業でもよい。
猿田理事	2年後3年後の予算にかかるものではあるが、当然1年、単年度で良い結果を得る事業というのはそうない。予算については、その都度その都度、同様に予算を獲得する覚悟である。
B委員	<p>300万円が上限とするとあるが、単年度ではたくさんの事業を実施する場合は、これを超えてはならないということによいか。</p> <p>次年度以降は、予算等の事情もあるが、継続するものについても努力したいというお話があった。</p>
議長	委員の皆さんから質問はないか。
B委員	ソフト事業と言うことだが、ソフト事業を実施する場合、将来的に設備、施設等のハードが関連してくると考えられるが、これに関する提案でも構わないのか。
猿田理事	<p>建物等のハード事業まで突っ込んで話をするのは無理があるので、将来的な地域、地域の構想を練る上で、こういった拠点にはこういったものが必要だという、いわゆる地域づくり推進に必要な、研修事業として地域にあって必要なものを検討しよう。それに関して講師を呼んで、この地域にはこういったものが必要なんだ、という勉強会をやるなどの組立の中でこの事業を有効に使っていただく。</p> <p>2年後、3年後にその結論、皆さんの意見がまとまったものであれば、こういった施設がこの地域には必要なんだとなると、市の総合発展計画に地域のご要望として積極的に組み入れていくようにもって行っていただくのが適切かと思う。おっしゃる通り、将来的な構想にむけての下準備の勉強会、あるいは研修会、学習会といったものは十分構わないと思う。</p>
議長	<p>委員の皆さんから、お聞きしたい件などはないか。皆さんからアイデアを持ってきていただいていると思うが、お尋ねしたいことがあったら発言していただきたい。よろしいとすれば、先に進めさせていただきたい。</p> <p>地域づくりのソフト事業について、開催通知の中に添付され</p>

たプリントで、ねらいとするところを例示している。いろいろ感じられたのではないかと思うが、委員の皆さんからアイデアをご提案いただきたい。

伊藤総合支所
長

この案内通知に入れた内容だが、他地域協議会では、この事業は今回の地域協議会で初めて委員に公開したものである。東由利では、このソフト事業はぜひ有効に活用していきたいので、あらかじめ実施要領はあえて一切載せずに、こういうことを考えているので皆さんのアイデアがあったら教えてください、ということであらかじめお知らせしたもの。今日、実施要領を見て、皆さんが考えていたことと違っていたと思っても、本日はそういったことは考えず、皆さんの考えていることを出してください、次回の協議会までに皆さんから追加があればさらに加えて、まとめていきたい。

議長

委員の皆さんが持ち寄ったものは何でもよろしいということである。

あまりこだわらずにアイデアを出していただきたい。

今日は、自治会の代表者や商工女性部、防犯指導隊、学識経験者がお見えになっているので、何でも結構と言うことなのでお願いしたい。では、こちらから順番に。

C 委員

地域づくりという意味では、あちこちであるように「～の町」と銘打ってのまちづくりはどうか。例えば、能代のバスケットの町、ソフトボールの町など。東由利は「黄桜のまち」であるうが、できればシーズンごとに企画が有ればよい。地域に300万ということだが、三つのイベントを兼ね合わせてもいい。冬場になれば「スキーの町」というのがいい。

D 委員

いつも言われることだが、八塩いこいの森などの施設の看板や案内が足りない。八塩ダムに行くにはどうしたらいいかわからないとよく言われるので、せっかくある施設を活用するためにもそういうものが必要なのではないか。

E 委員

横手市のふるさと村でB - 1グランプリがあったが、由利本荘市でもそういうものを出したらどうか。なにか一つ、横手焼きそばのように特徴あるもの、例えば食べ物のイベントに参加

できたらいいと思う。

あと、いつも気になっていることだが、石沢の国道の曲がり角を直して欲しい。この場で言うことではないかもしれないが、冬はもちろん、通年事故が多い。

F 委員

館合地区の下小路、家ノ下、宇戸坂、館西の四集落に、明治時代から館合若者共済団というのがある。現在は館合共済団という組織になっている。各戸が構成員となっていて約100戸である。何をやっているかという、地域の祭典行事を、神社などはあるが、共済団が実際に請け負っており、そのほかに街灯の管理、消防後援、入会林野の経営・管理などの事業を行っている。経費という、団費という形で、一般と入会林野に関わる経費として徴収している。そのほかに、消防後援のための費用も徴収している。その場合、団が事業を行う場合は、ひとり暮らしや高齢者への出役免除等を行っているが、その分、財源が不足している。この地域づくり推進事業の中で、免除分の額への補助は可能か。

議長

一通り皆さん終わった後に市側からの回答でよいか。

G 委員

黄桜のまちという話が出てきたが、「東由利」を知らない人も「黄桜」はわかっている。それほど「黄桜」が有名になっているということだが、これに関するイベントが、最初の頃から少し変わってきている。最初の頃は、まったくの手作りで住民参加によって運営していたが、今はプロに近い方をやっている。それはそれでいいけれども、変わってきたと思う。本当の意味の地域づくりとはなんだろうか。

また、いこいの森について黄桜の里と言うが、黄桜は5月中頃で咲き終わり、後は集客ができない。それ以外の時期の集客は、パークゴルフである。これは、毎日のように、何十台、多いときでは何百台という車が来場している。それだけ人が入っているということである。多数の来場により、いろいろな要望がある。ますます継続して人に来てもらうにはそれなりに経費がかかるということではないか。ここ2～3年の集客の推移を教えていただきたい。その点も踏まえながら、それに対する対応が必要なのではないか。いろいろな要望は聞いても予算がない

と却下されてしまう。黄桜の里、またはパークゴルフ県内一としてやってきているが、そういうのを維持していく上で、市はどう考えているのか。どういう目玉にしていくのであろうか。

また、環境美化活動があげられているが、政権が替わったからなのだろうか。地区の若妻会で花の会をつくって、花植えの美化活動をしている。以前は花苗の助成があったが、一気に予算が0円になったことがある。それがこうして美化運動があげられているのは、市長が替わったからなのか。そういう活動は長く続けることが大事であり、また、地域住民の協力が無いといけない。そのための活動費をあとという間にゼロにしたら続かないので、地域住民の声を聞きながらやらないといけない。いくら良い案を出しても後に続かないと意味がない。継続できるようなシステムにしていきたい。

H 委員

先日の文化祭に参加したが、人が来なくて寂しい思いをした。そのとき、ちょうど高瀬小学校の餅つき大会、インフルエンザが重なってしまって仕方ない面もあるだろうが、出品作品も少なく、見る人もいないのではないかと感じた。私たちのイベントでは85人～6人しかきていない。もし私たち十数人が参加しなければ、保健師がたった一人になってしまう状況であった。そのような文化祭では大したことがないということになってしまう。なんとかしたいと思った。なかなか参加できない人が多いのだろうと思うが、なんとか方法を考えて、一つでも盛り上げていきたいものであると深く考えた。ただ、具体的な方法はまだまとまっていないが、最近のことなのでそう感じたので、皆さんで考えていただきたい。

I 委員

地域づくりと言われれば、分館活動が一番適しているのではないか。私たちの地区では、春にはさなぶり運動会をやって、夏には夏祭りをやって、秋には研修旅行をやり、冬には冬祭りをやって、地域では盛り上がっている。やはり、事業をやっていくのにはお金がかかり、そのための寄付をもらっている。夏には大銀杏まつりを行い、子供も巻き込んだ子供の御輿などもやっており、子供から大人まで、蔵地区は活動をしている方だと思った。ただ、この事業に、どうつなげられるのか、300万の枠に入れてもらえるものか。それを東由利地域で一つとな

ると、地区・分館が複数あって、一つとはならないと思うが、蔵地区は1年間通じてそれなりに地域づくりをやっている。

J 委員

先日の秋祭りについて、H委員と全く同じである。インフルエンザなどもあって子供がいなく、子供がないということはお母さん方もついてこない。食堂をやったが、お客さんが少なかった。前のように野菜の販売をやったら人が来るのではないかとも思った。野菜作りをする人も少なくなったのだろうか。来年は生産者にもっと声かけして出してもらえるようにすれば人が来るのではないか。もっと賑やかな秋祭りにしたい。

A 委員

二つほどお話し申し上げたい。今、河川が非常に汚れていると言われてきて、だいぶ経った。今朝も見えてきたが、ビニールごみが引っかかっていたり、水の色も黒いと感じた。ずっと前から考えていたが、河川を綺麗にしようとして一生懸命言ってきたが、なかなかそれに行動が伴わないのが現状であろう。

これにはぜひ子供の力を借りたい。今、鮭が盛んに昇ってきている季節だが、子供達の力を借りて鮭を放流し、鮭を昇らせようという思いである。鮭を放流すると、いずれ回帰する魚であり、できれば自分の孫もふるさとに帰ってきて欲しいという思いを込めながら、子供達に鮭の放流させてみたいと思った。ただそれには、内水面関係や大梁の採卵場などもあり難しいと思うが、先ほど黄桜のまちというキャッチフレーズも出たが、「黄桜の里」に鮭がのぼってくるというキャッチフレーズで鮭の放流ができればいいと思う。

次に、今すぐの話ではないが、いずれ平成23年度には小学校の統廃合となるが、いずれ八塩小学校が廃校となるようである。あの校舎を利用して何かできないか。体育館もあって食堂もあるので、できれば山村留学などが出来ればいい。いずれ高速道路が無料化になるという話もあり、東京からも一晩で来られる。短期間の山村留学ができるといい。それには当然、校長も要るだろうし、山の学校の先生も要るだろうし、田んぼの先生、野菜の先生も要るだろうから、例えばグリーンツーリズムと連携をとってやればいいと思う。

K 委員

私たちの地区のことだが、国道が大変良く整備されたが、道

路の継ぎ目の音が大きくて、夜間の騒音となっている。なんとかならないだろうか、という声が聞こえている。うまく対応できないものか。

L 委員

日頃から思っていることを述べたい。

最近の地域の絆、つながりが薄れている関係で、地域が寂しくなったように感じたのは私だけではないと思う。とりわけ私は、勤めるようになってから、地域のことが見えなくなった。

田代自治会では今年の秋、河川にアジサイを植えた。おそらく、市の協力のもとでやったものだろうと思う。いずれダム周辺に向かう観光客が増えてきたときは、あの一帯が綺麗な川になるだろう、ということ在地元の人達でできるところからやろうというのが、自治会長の考えである。それに対する反対も出ず、30戸ほどある自治会内で、日曜日に20人参加して植えた。

先ほど河川のゴミ掃除の話も出たが、県か国の予算なのかもしれないが、川掃除で木を切り、下草も刈ると自治会にお金が入るようであり、自治会長が率先して川掃除をしている。今すぐきれいにはならないだろうが、5年、10年後には河川が綺麗になるのではないかと思っている。できればそれに鮭がのぼってくれば、八塩ダム周辺が売り物になるのではないか。

仕事柄、森林・林業ということで、中山間地域に100万人雇用するという国の取り組みもあるように聞いている。もしそういう予算が来れば、森林組合としてもいち早く組合員にアピールして、ボランティアではなく「動けば金になる」ような事業展開をこれからは考えなくてはいけないのではないかと感じている。基本的にはやれるところからやりながら、地域おこしというのが基本かと思う。

B 委員

一つはさなぶり大会のようなイベントを開催して欲しい。

旧町時代にはさなぶり大会が実施されていた。当地域は、民謡の初代名人、藤丸東風先生を輩出しており、二代目の方も東由利出身者である。また、民謡日本一の浅野和子さん、柿崎竹美さん、全国的に三味線で活躍されている浅野梅清さんのような方々が育っている地域である。東由利町当時から、さなぶり大会では、田植えが終わって一段落して、豊作を祈願する意味

も込めて、イベントを開催してきた。そのイベントの中では、地元の民謡同好会、踊りの会、老人クラブ芸能部の方々なども積極的に参加していたので、再度さなぶり大会の実施はできないか。

先ほどから出ている八塩いこいの森について、パークゴルフ大会の東北大会や秋田わか杉国体のデモスポ競技としてはやったが、全国大会までできないのかなと悔しい思いをしている。全国大会をやるにはホール数が少ないという事情があるようだが、36ホールでも可能な全国大会の運営方法もあるのではないか。その点については、パークゴルフ協会とアイデアを持ち寄れば可能ではないか。パークゴルフ全国大会をなんとか実施して欲しい。

黄桜の話も出ているが、日本一の黄桜ロードをつくってはどうか。八塩いこいの森の登山口から入口までは黄桜と八重桜を植えているが、あの道路一帯に黄桜を植えて黄桜ロードつくればどうか。八重桜でもよいが、日本一のというキャッチフレーズをつけてやっていければ、八塩いこいの森も引き立つのかな、と思う。

また、それ以外の時期、夏・秋などフルシーズンでいこいの森を活用できる事業はないか。

雪上野球大会を東由利地域では実施しているが、これは全国でもここだけだろうと思うが、雪まつりツアーの一環として行っている。これは秋田の国際教養大の外国人学生にも参加していただいて、ワールド大会として行ってきたが、これもぜひ全国によびかけて全国大会にできないものか。これは本市の非常にユニークなとりくみとして、全国紹介できるのではないか。また、併せて観光PRや地域の健康づくりにもなっているのではないか。

次に、小松音楽兄弟、音楽祭を毎年実施しているが、この内容充実化をしたらどうか。それほど経費がかかるものではない。合唱コンクール、プロの演奏を聴くという中身になっているが、今やっているものに便乗してという形だが、この音楽祭に作曲発表部門を組み入れることはできないのか。この部門については、それほど経費がかからないので、継続した取り組みにしていければいい。

最後に、一番に言いたかったことだが、東由利出身者で活躍

している著名な人がたくさんいるが、それら過去に活躍した、現在活躍している方々の功績をまとめげる作業チームの編成は出来ないか。主旨としてはそういう方々の事績録を作れば、地域の子供達の励みになるのではないだろうか。また、発行された事績録を各世帯や各団体に配布する。子供達に大きな夢を与えるものになれば、と考えた。

加賀振興課長

M委員から3点ほど提案をいただいていたので、報告します。
観光イベント事業

東由利地区には、県内一とも誇れるパークゴルフ会場があり、年々パークゴルフの各大会が盛んになっていると聞いている。そこでパークゴルフ大会をもっと広げるために、全国大会も出来る会場整備をし、雪の降らない夏場の交流人口の増加に力を入れて欲しい。

併せて、八塩周辺の黄桜まつり等々のイベントをP・R・してほしい。

人材育成事業について

合併前から当町出身の高橋宏幸先生の発表会が、全国各地から応募され、年々参加者も多くなっていると聞いている。この賞はもちろんだが、当町は世界で有名な遠藤章先生の出身地でもあり、晁先生に続く将来の科学者を育成する組織等をつくって、人材を育成したら、どうかと思う。

東由利地域協議会の今後の活動についての提言

本日、新任期の地域協議会2回目の会合になるが、今回大半の委員の皆さんが新人であり、今後の参考にしていただきたい。それは、周辺の定住自立や共生、また観光イベントの活動の現場研修をしたらどうか？

委員の皆さんにとっても、これから4年間の参考材料になるのではないか。

議長

身近な団体などから声があったら、発言していただきたい。なお、先ほど委員の皆さんからご発言頂いた内容については、要望というご意見もあったが、まとめあげて、それを何点かに絞り込みたいと思う。今、たくさんの意見が出たが、まだまだ、身近にあるのではないか。

伊藤総合支所
長

今日出た意見でまとめあげるわけではなく、今日の意見の報告を後日委員の皆さんにお送りする。それを参考にさせていただきながら、次回協議会においてまたアイデアを出していただいて、それからまとめあげることになる。また、予算要求については一つ一つという形ではなく、まとめた金額によりそこから支出していくので、今日出た意見ですべてという形にはならない。

なお、今日出た意見でお答えしなくてはいけないことがあったのでお答えしたい。E委員から出された国道のカーブ改良について、県にお願いを継続している。今年1月の新春座談会でも要望をいただいた。国道改修のための期成同盟会を通じながら、協力をお願いしていきたい。

F委員

館合共済団は広義の地域づくりの団体ではないか。5月始めの総会において決算を出したが、不況下ということもあるが、出役免除の分の歳入欠陥が出てしまっている。それに対する補助は可能か、という意味の質問である。

伊藤総合支所
長

いまやろうとしていることは、東由利でまとまって一つのことをしなくてはならないということではない。各分館単位で何かやるということも可能である。ただ、館合共済団の歳入欠陥の補填という趣旨ではないのだが、こういう事業をやるので補助が必要などということについては中身づくりなので、ご相談いただきたい。

H委員、J委員の秋祭りが寂しいというご意見について、農産展の日曜日の表彰式の前などでは例年子どもまつりをやって、たくさんの来場があったが、今年はインフルエンザで子どもまつりをやめてしまって寂しい。また、出品点数の減少については、どこの地域も減っている。これは米まつりも含めて、今後どうしたらよいかを、きちんと考え直していかなければならないという話になっている。具体的に何をやるか、までには至っていないが、各地域の賑やかさと市全体の賑やかさについて考えながら、大きな課題として取り組んでいかななくてはいけないので、市でも充分検討していきたい。

K委員からの国道の話は、現場等を確認して県に相談していきたい。

議長	支所長からお話あったとおり、次回協議会の際にもアイデア、意見を持ち寄ってほしい。
伊藤総合支所長	その際には総合支所の中の考え方も出したい。八塩小学校の統廃合のこともあるが、大琴小学校も同様である。また、黄桜まつりをもっと充実できたらいい。さらに、東京東由利会、ふるさと会についても地域の方が参加できたら良い、といったことを考えているところであり、総合支所の中の考え方を次回にお示ししたい。それをもとにとりまとめていければいいと考えている。
小番産業課長	先ほどG委員から質問のあったパークゴルフ場の利用状況について、14年が約4,300人、15年6,000人、16年9,100人、17年12,000人、18年12,700人、19年はいまのところ最多で15,000人、20年13,600人、21年は9月現在までで14,000人であり、最終的には16,000～17,000人の今までの最高を記録するのではないか。
G委員	<p>今年はパークゴルフ大会がたくさんあって、ツルハの大会や、今年初めて行ったイオンの大会、もちろん市の四大大会など多くの大会があった。おそらく今年は18,000人を超えるのではないかとも思っている。年々大きくなってきている。そのため、土日に大会があってその日に休みを利用して初めて来る人も多いが、その方々は大会のたびに入れないという現状がある。大会は36ホールで行うため、大会が終わるまで入れない。もう18ホールあると、大会開催中にも初めて来る人が利用できる。利用度が深まれば深まるほどデメリットも大きくなってしまっているので、その点の解消をやって欲しい。</p> <p>また、地元の幅広い利用が少ない。年に1回か2回くらいことぶき大学でパークゴルフを体験することがあるが、大変素晴らしい競技だと好評を得ているものの、一人では歩いて来られない。週1回でも運んでもらえる交通機関があるといいという声も聞こえてくる。有料でもいいので、そういう要望に応えていただきたい。</p> <p>今年から、八塩いこいの森の食堂が毎日営業するようになっ</p>

た。八塩そばの評判が非常によくなった。売上もかなりあがってきている。ぜひ、八塩そば組合もあるので、利用度を高めて、いこいの森を良くして行ってほしい。

伊藤総合支所
長

18ホール増設の必要性は重々感じている。今すぐという訳にもいかないが、発展計画に入れ込んでいけるよう努力したい。もう少し、我々に努力させていただきたい。

D委員

学校の廃校舎について、羽後町では廃校舎を修学旅行生の受け入れの場に行っているところがある。各農家で草取りなど何でも体験させて、校舎で寝泊まりさせるというのがある。それには保健所や消防法の絡みもあってお金が掛かるようだが、そういうやり方もあるのではないか。

伊藤総合支所
長

確かにそういう例もある。県内でも廃校になった校舎を一般公募して貸し出すという動きも出てきている。この資料3, 4の中に定住自立圏構想というのがあるが、その中でも大琴小学校の活用を含めて考えていきたいと思っていた。学校校舎解体するにもお金が掛かるわけであり、こちらのアイデアについて、D委員やいろんな方々とも相談していきたいと思っている。

8. その他

議長

では、協議そのものを終了し、4. その他として資料3, 4の説明を事務局から。

加賀振興課長

(資料3, 4の説明)

議長

それでは第2回協議会を終えるにあたり、副会長から挨拶をお願いしたい。

小松佳和副会
長

今日は貴重な時間をいただき、皆さんから熱心にご意見を出していただきありがとうございました。

地域の話ではあるが、これから国の動きも、地域みんなの動き如何で地域の発展が違ってくる時代になってきている。行政も地域も、自分たちの意識で変わってくる。先ほどの河川の話について県の事業だが、まだまだそういう予算があちこちに眠

っているのではないかと思っている。

実は、由利本荘市の緑化推進委員会の会長をやっているが、これも県からお金が出るようであり、皆さんから頂いている水と緑の森づくり税についても、手を挙げたところに対して交付されるようである。自分たちで勉強して地域に活用できる意見を出さないといけない時代になっている。

皆さんと力を合わせて、由利本荘市や東由利から立派な地域づくりができればいいと思う。

9 . 閉 会 午後3時